

大阪きょうだいの会例会「きょうだいカフェ」へのお誘い

「障害」という言葉がスティグマ(社会的烙印)として働く世の中では、障害児者とその家族に対して絶えずネガティブ(否定的)な眼差しが注がれ、時には「美しい家族愛」の物語が語られます。それは世の中に深く潜む「自己責任」「自助努力」という言葉と重なり合っていて、現実社会で日々生きる私たち家族もいつのまにか同じような「ものの見方、考え方」に囚われてしまいがちです。

◀「美しい家族愛」の物語▶

見える

行 動

- * 人生をあきらめる⇒「良い親、良いきょうだい」(ケアラー)としての役割選択⇒問題の抱えこみ、孤立
- * 生の感情を抑える「笑顔のマイノリティ」

社 会

- * 自己責任論・競争原理⇒家族介護・家族扶養の考え⇒「最後の砦は家族」
- * 入所施設から地域へという流れ⇒選択肢の少なさ

内

心 理

- * 社会意識の内化⇒マイノリティ(社会的弱者)への脱落感、閉塞感、罪悪感、生きづらさ、将来への不安
- * アイデンティティー(自分自身感)の揺らぎ

外

世 間

- * 障害がスティグマ(烙印)として働く⇒ネガティブ(否定的)な視線⇒社会意識⇒排除・差別
- * 「家族の愛さえあれば」⇒社会的圧力

見えにくい

私たちは人生で様々な困難に出会います。その時々体験や複雑な感情にフタをして頑張っていると厳しい日々の暮らしの中で追い込まれ、それが許容量を超えると「自分を大切にしたい」「人間らしく生きたい」という気持ちが萎えてくる時もあります。問題を独りで抱え込み、世の中から孤立してしまい、必要な時に「助けて」とSOSを出せなくなります。これは親も、障害のある本人も、きょうだいも同じだと思います。

大阪きょうだいの会はきょうだいの自助グループ(セルフヘルプ・グループ)です。例会は「きょうだいの語りと傾聴」の場です。「障害児者のきょうだい」としての自分の生きづらさ・悩み・不安などを仲間に話し・聴いてもらう場、もやもやとした感情を吐き出す場、生き直しの場です。そして、自分が抱えている問題を仲間のサポートを受けながら、自分自身で解決の道を探っていくことをめざしています。

私たちが大切にしていることは、「同じ境遇の仲間がいる」「みんな自分の話に真剣に耳を傾けてくれている」「きょうだいの混沌とした感情や思いが一方向的に否定されることがない」「説教されることがない」「ここは安心できる場だ」という参加者の実感です。毎回の参加者は10名前後の小さな集まりです。年齢は20代～70代と幅広く、女性が少し多いです。

例会の後は、自由参加のアフタートーク(居酒屋での飲み会)も行なっています。よろしかったら足をお運びください。歓迎します。

●第55回例会＝1月26日(日)	国 労 大 阪 会 館	2階、第1小会議室	13:15 開場・受付 13:30～16:45	対象＝概ね18歳以上の障害児者の兄弟姉妹(きょうだい)に限定 参加費＝1,000円(会場費・資料代・通信費など)
●第56回例会＝3月22日(日)		2階、第1小会議室		
●第57回例会＝5月24日(日)		2階、第2小会議室		
* 会場＝国労大阪会館(大阪市北区錦町2-2、JR大阪環状線「天満」駅から徒歩5分、☎＝06-6354-0661)				
* 申込み＝事前に参加のご連絡をいただければ助かります(電話、ショートメール)。当日参加も歓迎です。				
【問合せ】大阪きょうだいの会 世話人 090-2384-9368(溝上)				